

---

宮 嶋 怡 正

議長（村松 積） 次に、4番、宮嶋怡正君、質問を許します。登壇願います。

4番、宮嶋怡正君。

4番（宮嶋 怡正） 4番、宮嶋怡正です。

私は、先に通告してあります合併浄化槽保守点検料の無料化について質問をいたします。

下條村は、先を見据えての負担軽減を考えて、近隣の市町村ではいち早く合併浄化槽全戸設置を目標に向けて積極的に取り組んできまして、その結果、普及率は20年度末で94%となり、村民の大多数が快適な生活を送れるようになりました。そして保守点検料の1/2を村が補助をしていてありがたいわけですが、20年度までは年4回の保守点検の1/2を村が補助を行っていたわけですが、今年から保守点検が年3回になったということで、今までどおりの1/2を村が補助ということであると、村の補助が20年度より減額されることとなりますので、将来を見据えた展望と合わせて今生活をしている人たちへの直接支援として保守点検料の全額無料化に向けて村長のお考えをお聞きしたいと思えます。

議長（村松 積） 伊藤村長、答弁願います。

村長（伊藤 喜平） お答えいたします。

今、点検料の話が出ました。1/2にして3回になったでもうちょっとやれと。その中で無料化という問題が出ました。「無料化」ということは私は非常に危険な言葉でございまして、無料にするということで、基本はあくまでも自己責任であり利用者負担という大原則を失ったときにむなししい議論になるわけでございます。

議員もご承知のように、下條村の財政力指数0.23でございます。その中で皆さんに本当に危機感を持って一生懸命やっていただいて、実質私が試算したところによりますと、実質財政力指数は0.48から0.5くらいまでについておるのかなというふうに思っております。その差額が今日の健全財政につながっておるわけでございますけれども、そうした血のにじむような努力の中で、調子がよけりゃただにせよと。これはちょっと軽井沢ならそのくらいなことは言えるんですけれども、そこらの辺はもう少し意識改革をしていただきたいなと思っております。

それじゃせんのかということではなくて、実質2万1千円でございます。これが4回

が3回になったということでございますけれども、私どもは今の金額のだいたいまた半分くらいにしたいなと思っております。当然上限は設けるわけでございますけれども、そんなことを考えておるといふことと、点検料も大変なんですけれども、一番問題は引き抜き汚泥でございます。これに相当大量の金がいるわけでございまして、この関係については1/2にしたいなと思っております。

あくまでも自己責任自己負担が大原則であるということでございまして、1/2これは金額的にも相当大きくなるわけでございますけれども、この方策と今までの公共下水道だとか農集排、これと比較したらこんなにまた差がついてしまうわけでございまして、差がつくということは生活コストが下がるということでございますので、これからはやってみていただいても、何でも無料にせよというこれは非常に大胆というか、コスト意識のない感覚。常に危機感を持っていなければいけないということで、ここにも皆さんにもお読みしたと思っておりますけれども、11月の8日の日に、行政刷新会議の7人のうちの2人が、どうしても下條村へ来たいということでございます。これは最初にお話ししてあるように、民主党本部から「何とか受け入れてくれ」ということでございまして、私どもはご丁寧に謙虚にお断りしておりました。ところが内閣府から来て、今度も今年中に内閣府がお礼に来てくれるそうでございますけれども、内閣府からとにかく顔を立ててくれということでございまして、全村駅伝の日に寺田さん、これワーキングチームの一番総括責任者の最高が枝野さんでございます。そしてワーキンググループの公共事業等のワーキンググループナンバーワンは寺田さんということ。それから角田さんというのも来ました。

ここにありますけれども、全部長い文というか、そんなに長くないんですけども、ポイントを置くと下條村来て、「心から感服した」と。何に感服したといえ、これ書いてあるとおりに言うんだで誤解せんようにしていただきたいんですけども、「何に感服したとかといえ、村長の至極まっとうな経営感覚と、村民の危機感が伴った強い自治意識であると。自分のことは自分でしましょうとか、そしてこんなことをしておると下條村も同じ村になっちゃうよというこの自治意識に心から感服した」と。この一番大事なところをただただと配るような感度は非常に危険。下條村の立場としては危険であるということと、これからの行政、さっきも冒頭申しましたけれども、1年間の賄いをやるに70%も借金しなければできないんだ。そしてしかもその国債の借金だけでも610兆円、それ

から民間にその貸す過疎債、また10年にわたって払うとか、何とかという空手形を切ったのをやると900兆をオーバーするだろうと。

例えば国債だけ見ても、今は国内の皆さんがあの安い金利でも買ってくれるんですけども、だいたい私ども長らく商売しておって金利というのは4～5%つくもんでございませう。そうすると、仮に5%の金利だと610兆円に5%の金利をつけなければ売れなくなったということになれば、これから国債も発行していかなければならないんですけど、5%だとすると30兆5,000億円、金利だけで税収がいくらあるかということ38兆を切るということ。そうすると、国債の金利を払うだけで税金とちょぼちょぼになってしまうと。

こんな状態がどうやって解決できるかということは、やはり危機感を持ってなければ。国家に対しても危機感を持っておらなければならぬし、「よし分かった分かった」なんていって今までなれ合い政治をやったがために、コスト意識も国民に言うことなく票がほしい票がほしいということでなれ合いでやってしまったことが、今日の結果を生んでおるといことになる、寺田さんの言うように、村民の危機感が伴った強い自治意識。下條村は下條村でなんとしてもやり抜かなければしょうないぞというところをぴしっと見ていってくれたということ。これは私はありがたいことであろうと思いますし、これからこの人たちも大いに利用というか、お力をお借りしながらまたやっていくつもりでございませう。

ちょっとばか調子がいいなんていって、うぬぼれちゃいけないということで考えておるわけでございます。

そういうことで1/2、今までのやつをまた1/2にするということ、点検料。そして汚泥引き抜きは上限今考えておるのは3万円、上限3万円で汚泥引き抜き。これは3万円もいくらかかるところがあるわけでございますけれども、これを半額にするということで、相当大なたを振るうようにやるつもりでございませうので、ご理解いただきたいと思ひます。

議長（村松 積） 4番、宮嶋怡正君、再質問がありましたらお願いします。

4番、宮嶋怡正君。

4番（宮嶋 怡正） 4番、宮嶋です。

ただいま村長答弁で、「利用者負担が原則だから無料化はいかなものか」という答弁いただきました。

汚泥の引き抜きは1/2の補助ということでこれは大変ありがたいことでもあります。そうはいいまして、昨年までは957万円ほどが保守点検料で補助があったわけでありまして。今年から3回を1/2ということになりますと、717万円ほどで昨年よりも減額ということになりますので、せめて昨年並みの保守点検料の補助をいただければありがたいと思います。

この厳しい状況の中で、危機感を持って望めということでもあります。十分分かります。9月議会で村長答弁ありました。基金残高がどのくらいが一応のめどとして適当かという質問の中で、「年間の予算規模ほどがまず適当だろう」という答弁いただきました。20年度末で32億円あまりの基金残高となっております。これも血がにじみ出るような行財政改革を進めてきた伊藤村長の強いリーダーシップの下、村職員、村民の理解があったからだと思しますので、将来展望合わせの中で、今生活をしている人たちの直接支援として何とかお願いをできたらと思います。

以上です。

議長（村松 積） 伊藤村長。

村長（伊藤 喜平） 基本的には、その村が今まで900万円出してあって700万円になったで村のもうけだでそれを還元せよと、その考え自体がおかしいわけでございまして、村が出す、それは900万円が適当であったか適当でなかったか、普通のところ1,800万円を出しておるところもいくらでもあるわけでございます。低くすれば低くせよ、低くすれば低くせよと、その論理は非常におかしいことでございますし、私どもも3/4からやったんだな。

議長（村松 積） 堀尾振興課長。

振興課長（堀尾 伸夫） 村長の答弁なんですけど、今現在3回になったんで年間15,750円費用がかかると。今現在はその半額で7,875円、それを村が半分、それから設置者が半分。

先ほどの村長さんの答弁は、その自己負担の7,875円の半分もう半分、簡単に言うと75%を村で見ますよという答弁なので、先ほど言ったように減らないです。逆に村の

負担は増えてきますので、ちょっと質問が若干ちょっとかなと思いました。

以上です。

議長（村松 積） 4番、宮嶋怡正君、よろしいですか。

4番（宮嶋 怡正） 分かりました。ありません。